

ソーシャルビジネス・ネットワーク



平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
年次レポート

S B N

ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

代表理事からのご挨拶

いつもソーシャルビジネス・ネットワーク(SBN)をご支援いただき、ありがとうございます。現代社会には、福祉、農業、環境、貧困、差別、平和などの分野で、さまざまな問題があります。こうした社会的課題をビジネスの手法で解決することをソーシャルビジネスと言いました。確かに、効率や生産性を追い求める社会は経済の成長を促し、人々に物質的豊かさや便利な社会をもたらしました。しかし一方で、競争の激化や格差の拡大、コミュニティの崩壊、環境破壊など生み出してきたことも事実です。企業経営に新しい考え方が求められるようになってきました。企業といえども社会的責任からはまぬがれることはできない。自社の利益だけを追求する企業活動ではなく、いかに社会に貢献するか、社会的課題の解決にどう関わっていくかが問われる時代になったのです。

「会社」は英語では Company ですが、これはラテン語の Panis (パーニス)に接続辞の Com をつけた合成語で、「パンを共に食べる」「食料を分け合って食べる」という意味になります。このことは、会社というものは本来、経営者や株主が利益を独り占めしていいようなものではないことを示しています。しかし、近年の富の集積実態は驚くべきものがあります。富める者と貧しい者の格差は広がるばかりです。世界で最も豊かな8人が世界人口の貧しいほうから半分の36億人に匹敵する資産を所有していることが明らかになりました。世界では、10人に一人が1日2ドル以下でしのぐことを余儀なくされています。格差拡大は、何億もの人々を貧困の中に封じ込め、社会に亀裂をつくり、民主主義をも脅かしています。企業のあり方、会社のあり方が世界的に問われているのです。

3.11 東日本大震災以降、日本ではさまざまなソーシャルビジネスが生まれました。復興の過程でビジネスが生まれ、それがそのまま地域や社会に貢献する活動になっていきました。そうした企業の中には、大きく成功した企業もあります。これまでの日本にはなかったような志の高い企業活動をしている会社も誕生しました。ソーシャルビジネス・ネットワークは、そうした企業の知恵や経験を他の企業につなぎ、広く社会に伝える役割を果たしたいと思います。今後とも、ソーシャルビジネス・ネットワークをご支援賜りますようお願いいたします。また、多くの皆様が当団体に参加してくださいようお願いいたします。



一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
代表理事 藤田和芳

目次

I. 事業報告	3
1 2017年度 戦略方針の振り返り	3
1.1 短期的計画	3
1.2 中期的計画	3
2 個別事業報告	3
2.1 シフトラボ事業	3
2.1.1 総合的アプローチ(1)ギャザリング的な場の設定	3
2.1.2 総合的アプローチ(2)サロンのな場の設定	4
2.1.3 専門的アプローチ	4
2.1.4 個人向け個別プログラム実施状況	5
2.1.5 シフトラボ事業の新たな展開(1)	5
2.1.6 シフトラボ事業の新たな展開(2)	5
2.2 社会事業家 100人インタビュー	7
2.3 政策提言・研究事業	7
2.4 国際協力事業	7
2.5 中期的計画	8
3 組織運営報告	8
3.1 会員について	8
3.2 広報・PR	8
3.3 定例会議	9
II. 事業計画	10
1 シフトラボ事業の継続展開	10
1.1 地域シフトラボ	10
1.2 ビジネス・シフトラボ	11
1.3 丸の内プラチナ大学	11
1.4 SANNO 夜活講座	12
1.5 フォーラム	12
1.6 コミュニティ	12
2 社会事業家 100人インタビュー	12
3 今後の活動計画の考え方	13
3.1 政策提言(アドボカシー活動)の推進	13
3.2 中長期改革の推進	13

I. 事業報告

1 2017 年度 戦略方針の振り返り

2017 年 6 月 15 日に開催された理事会及び社員総会での承認のもと、以下の計画に基づき、事業推進、組織運営を図ってきた。

1.1 短期的計画

「シフトラボ」事業の継続的な展開として、総合的アプローチと専門的アプローチ、両面での展開を図ると共に、受講後、修了生が参加することのできるアクション・コミュニティを構築・推進する。

具体的には、総合的アプローチとしては、SBN メンバーと交流することのできる、ギャザリングやサロンを展開し、専門的アプローチとしては、特定のソーシャルテーマについて学ぶことのできる連続講座を昨年に引き続き継続展開する。またアクション・コミュニティを受講後、修了生が参加することのできる、テーマコミュニティとして展開する。

新たな展開としては、地方創生や SDGs などをテーマとした、ビジネスパーソンを対象としたプログラムを展開すると共に、法人・国・自治体への重点的な営業開発、事業開発を図る。

1.2 中期的計画

1、2年という中期的なスパンで、組織戦略に関する検討を行う。今後の中長期的な視野でビジョン・ミッションや、体制、活動などのあり方も改めて見直し、改革を図る。熊野英介副代表理事を中心に、今後の展開について検討を図る。

2 個別事業報告

2.1 シフトラボ事業

2.1.1 総合的アプローチ(1)ギャザリング的な場の設定

以下の事業を実施、推進してきた。

① 「ソーシャル・タウン・フォーラム～地方創生、SDGs 実践に向けて SBN ができること～」

SBN が設立趣意書で謳っている「ソーシャルビジネスは、地域社会が本来持っていた人と人との絆や自然と共生する智恵などを再評価し、社会を再構築する試み」という考え方に立ち戻り、地方創生に寄与する活動を検討するフォーラム。

- ・ 登壇者：熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事・事務局長、胤森なお子理事、鈴木亨理事、大場龍夫フェロー、小出浩平フェロー
- ・ 開催日時：2017 年 6 月 15 日 18:30～20:00 ※総会と同時開催
- ・ 会場：NEC 芝倶楽部

② 「ブルーオーシャンへの挑戦 課題先進国に舵をとれ！未来経営シンポジウム 2018～社会ニーズの市場化に向けて～」

熊野英介副代表理事が発起人代表となり、町野専務理事・事務局長が発起人を務める「持続可能経済協会(未来設計と持続可能な市場の開発を目的とした、企業経営者の有志連合)」との連携により、地域の企業発、ソーシャル・タウンのあり方を検討するシンポジウム。

- ・ 登壇者:熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事・事務局長、篠原稔和フェロー、佐倉統氏(東京大学大学院情報学環 学環長) 他
- ・ 開催日:2018年2月21日 13:30～17:45
- ・ 開催場所:東京大学 情報学環・福武ホール
- ・ 主催:ソーシャルビジネス・ネットワーク、持続可能経済協会、アマタグループ

2.1.2 総合的アプローチ(2) サロンのような場の設定

「丸の内プラチナ大学」第二期の展開として、以下の事業を実施してきた。

① 「Social SHIFT テーブルコース」

毎回異なる SBN メンバーが登壇する連続講座。少人数限定で、ソーシャルな飲食を伴う寛いだ雰囲気の中で、個別の質疑を行うことができるプログラムとして展開。

- ・ 登壇者及び登壇日:横石知二 理事(7/21)、海津歩 常務理事(8/25)、藤田和芳 代表理事(9/15)、鈴木亨 理事(10/20)、池内計司 理事(11/10)
- ・ 講師:町野弘明 専務理事・事務局長
- ・ 時間、会場: 3×3 Lab Future、18:30～20:30

② 「SDGs ビジネスコース」

ソーシャルビジネス事業者が、各地域で展開しているサステナブル・ビジネスの事例を学ぶことで、SDGsの実践や地方創生関連など事業開発の可能性を探る連続講座。

- ・ 登壇者及び登壇日:川北秀人 理事(8/23、9/6)ゲスト:森田裕 氏(キリンホールディングス グループCSV戦略担当)、板持周治 氏(島根県雲南市役所 政策企画部 地域振興課 主査)、高津玉枝フェロー(9/13)、三浦 卓也 氏(フェリシモ haco! 事業部次長 北海道厚真町出向中)(10/18)戸羽太 氏(岩手県陸前高田市市長)(11/8)
- ・ 講師:小出浩平 フェロー
- ・ 時間、会場: 3×3 Lab Future、18:30～20:30

2.1.3 専門的アプローチ

「丸の内プラチナ大学」第一期卒業生の継続的な関りを促すアクション・コミュニティとして、以下の事業を実施してきた。

自然エネルギー・シフト コミュニティ

担当である鈴木亨理事を中心に、プロジェクト・プロデュースへと移行。国土交通省が展開する「住宅：空き家再生等推進事業」を活用した事業化を図るべく、コミュニティのメンター役である大場龍夫フェローが関係する、山梨県道志村へのフィールドワーク等を実施(7/22)。道志村でのサテライトオフィス推進事業への参画を模索。

2.1.4 個人向け個別プログラム実施状況

No	プログラム種	受け入れ先	開催日
1	ワンデイ・シフト	フェリシモ	8/26、10/28、1/27、3/24
2	シフト・インターン	森のエネルギー研究所	9/8、14、15、19、22(5日間)

2.1.5 シフトラボ事業の新たな展開(1)

～未来志向のヒト・コト・マチ創生、B2C、B2B、B2G 展開の統合モデル推進

地方創生の実現に向けた施策が進められ、地方創生の鍵の一つとして、ソーシャルビジネスが注目を集める中、設立趣意書で謳っている「ソーシャルビジネスは、地域社会が本来持っていた人と人との絆や自然と共生する智恵などを再評価し、社会を再構築する試み」という考え方に立ち戻り、地方創生に寄与する活動を展開。パートナーと共に、事業開発プラットフォームの設立を推進してきた。

①「ノーマライゼーションという言葉のいないまちユニバーサル・タウン陸前高田」事業

地方創生や働き方改革、一億総活躍などの流れを受け、法人や国・自治体等の開発を推進。「平成29年度 地方創生推進交付金」の採択を受け、「ノーマライゼーションという言葉のいないまちユニバーサル・タウン陸前高田」事業を、岩手県陸前高田市からの委託を受け展開してきた。(平成29年7月～平成30年3月)

2.1.6 シフトラボ事業の新たな展開(2)

～法人・国・自治体への重点的な営業開発、事業開発

①「シフト・ファーム・フォー・ソーシャル・タウン」

地方創生(優先地域としての陸前高田市)を念頭においたビジネスモデル創出及び事業機会を探索する、ハンズオン型ケーススタディによる実践サポート&研修プログラムを、異業種研究会形式で実施。NEC ネットズエスアイ、三井化学、松竹、電通、大日本印刷が受講。

【展開内容】

- ・ 第1回)8/22:オリエンテーション@東京、講師:小出浩平 フェロー
- ・ 第2回)9/4～5:フィールドワーク I @陸前高田市、講師:河野通洋 フェロー
- ・ 第3回)10/6:ワークショップ I @東京、講師:遊間和子 氏(国際社会経済研究所 情報社会研究部 主任研究員)

- ・ 第4回)10/27:ワークショップⅡ@東京、講師:日野公三 理事
- ・ 第5回)11/10:ワークショップⅢ@東京、講師:池内計司 理事、樋口哲朗 アドバイザー
- ・ 第6回)11/16~17:フィールドワークⅡ@陸前高田市、講師:田村満 フェロー

【アドバイザー】鈴木均 理事

【東京会場】NEC グループ企業会議室

②「地域シフトラボ」

社会的課題解決のスペシャリストである、日本を代表するソーシャルビジネス事業者と共に、自治体、企業、個人が、プロジェクトを通じて地域と関わりながら、全国各地に、未来志向の社会システムを共創することを目指したプロジェクトを推進。2030年に向けたSDGsの達成が国際的な課題となっている中、グローバルで未来志向の視野を持ちつつ、ローカルに自立して持続可能なコミュニティの形成を図る“グローバル(グローバル+ローカル)なまちづくりビジョン”をもとに、産官学民NPO等が共に助け合う理想的なまち、「ソーシャル・タウン」の実現を目指した活動を展開してきた。

③「ビジネス・シフトラボ」

AIやIoTなどに代表される技術の超速の進歩、超高齢社会の進展による生活スタイルの変化、環境問題やエシックスに関する社会通念の変容など、人々の生活や意識が大変革の時を迎えている中、新しい事業の興し方(ビジネス・シフト)のヒントを得ることができるフィールドワークを中心とした連続講座を展開。SOMPOホールディングス 損保ジャパン日本興亜、竹中工務店、太陽誘電、大日本印刷、電通、全国農業協同組合連合会が受講。

【プログラム概要】

- ・ 第1回) 11/20:東京でのオリエンテーション&ワークショップ(19時~21時) 事務局会議室
- ・ 第2回) 11/28~29: 島根県雲南市(小規模多機能自治体)、石見銀山生活文化研究所(群言堂)、中村ブレイスへのフィールドワーク
- ・ 第3回) 12/6: パタゴニア日本支社、リコー環境事業開発センターへのフィールドワーク
- ・ 第4回) 12/12: 東京でのワークショップ(18時半~20時半) 事務局会議室

2.2 社会事業家 100 人インタビュー

川北秀人理事発案のもとで展開している「社会事業家 100 人インタビュー」は半数を超え、今後も 100 人へのインタビュー実現に向け、継続展開を図る。

【実施報告】

回	開催日時	開催場所	ゲスト	参加人数
54	10/19 19:00～21:00	日本財団	(特)国際自然大学校 理事・アドバイザー 桜井義維英 氏	11 人
	11/6	(特)循環生活研究所 事務所	(特)循環生活研究所 理事長 たいら由以子 氏	非公開
55	12/6 18:00～20:00	展示館ブラザーコミュニケーションスペース (ブラザー工業)	郡上里山 興膳健太 氏	10 人
	2/16	東京証券会館	全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 代表 平井成子 氏	非公開

2.3 政策提言・研究事業

「首都圏若者サポートネットワーク(仮称)」運営委員会への参画

社会的養護を取り巻く課題などを踏まえ、措置経験の有無に係わらず家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者が自立するために必要な支援の仕組みを構築するために、「社会的養護下にある子の自立を考える研究会」が設置され、その成果として「首都圏若者サポートネットワーク(仮称)」が設立され、運営委員会が設置された。池田徹 顧問(ユニバーサル志縁社会創造センター代表理事/社会福祉法人 生活クラブ風の村 理事長)からの要請により、町野弘明 専務理事・事務局長が同運営委員会の委員を務める。(委員会開催日: 7/19、10/27)

2.4 国際協力事業

- 韓国 大邱市 青年センター 視察団の受け入れ

6 月 29 日 10:00～12:00、大邱広域市 青年政策課、大邱広域市 青年センター、(株)共感 SEEDS に対する視察、ヒアリング対応を行った。

- 韓国 テグカトリック大学 視察団の受け入れ

1 月 16 日 13:00～14:00、テグカトリック大学 教授、大学院生に対する視察、ヒアリング対応を行った。

2.5 中期的計画

熊野英介副代表理事を中心に、今後の中長期的な視野で、ビジョン・ミッションや、体制、活動などのあり方を改めて見直し、検討を図ってきた。

熊野英介副代表理事が発起人代表となり、町野専務理事・事務局長が発起人を務める「持続可能経済協会(未来設計と持続可能な市場の開発を目的とした、企業経営者の有志連合)」との連携により、地域の企業発、ソーシャル・タウンのあり方に関する検討を図ってきた。

その中で、12月10日に行われた「地球未来シンポジウム 2017～希望の探求」への協賛も行った。

【シンポジウム展開概要】

- ・ 日時:12月10日 11:00～17:00
- ・ 会場:国立京都国際会館
- ・ 趣旨:真に持続可能な未来の在り方を問うために、「時代を知り、未来を読む目」を持つ専門家たちが集結し、文明・哲学・テクノロジー・事業構想をキーワードに、各分野のオピニオンリーダーが「未来」と「希望」について語る
- ・ 登壇者:熊野英介副代表理事、公文俊平 氏(日本未来学会 会長)、東島誠 氏(立命館大学 教授)、他

3 組織運営報告

3.1 会員について

理事については引き続き会費または施設や物品供与等の形での協力を得た。会費については、会員A:7社、法人会員B:11社、個人会員13口という状況であった。

3.2 広報・PR

9/16、「起業するシニア、世のために働く」として、シフトラボの事業が朝日新聞に紹介された。また引き続き、メールマガジンやフェイスブック等での情報発信を行ってきた。

3.3 定例会議

計画に基づき定例会議を開催した。

【開催日程】

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者 (定足数)
理事会・ 社員総会	2017年6月15日 17:15～18:15(芝 倶楽部)	第1号議案:人事について 第2号議案:平成28年度事業活動報告 第3号議案:平成28年度事業収支報告 第4号議案:平成29年度事業活動計画 第5号議案:平成29年度事業収支計画	社員101名中、出席17 名、委任49名、計66名
経営会議	2017年12月5日 18:30～20:30(事 務局会議室)	人事について 活動報告、活動計画について	藤田和芳代表理事、熊 野英介副代表理事、町 野弘明専務理事、海津 歩常務理事
理事会	2018年2月14日 18:00～20:00	第1号議案:人事について 第2号議案:平成29年度事業活動中間 報告 第3号議案:平成30年度事業活動計画 の考え方	理事21名中、出席12 名、委任1名、計13名

II. 事業計画

1 シフトラボ事業の継続展開

総合的アプローチと専門的アプローチを合わせて考慮した個別事業の更なる展開を図る。地方創生や SDGs などテーマとし、「地域シフトラボ」や「ビジネス・シフトラボ」などのプログラムをもとに、ビジネスパーソンを対象としたプログラムを展開すると共に、法人・国・自治体への重点的な営業開発、事業開発を図る。

1.1 地域シフトラボ

昨年度に続き、「平成 30 年度 地方創生推進交付金」の採択を受け「ユニバーサル・タウン陸前高田」創造事業を、岩手県陸前高田市からの委託を受け展開する。(平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月※予定)

【全体概要】

「ユニバーサル・タウン陸前高田」構想は、陸前高田市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまち」実現へのアプローチの一施策として、「誰もが生き生きと働くことのできる環境づくり」を主軸として位置付け、さらに、それを「持続可能なかたちで維持・展開していくこと」を強く意識し、誰もが協働共生できるまちの実現を目指す事業。構想を実現していくために、3つのモデルに基づく5つの事業を推進している。

〔3つのモデル〕

ユニバーサル就労モデル	誰もが生き生きと働くことのできる環境を創るために必要な機能
ダイバーシティ推進モデル	主に都市部大企業の法定雇用率への対応課題の解決に寄与していきながら、陸前高田に安定した雇用環境を整備するための機能
匠ビレッジモデル	就労意欲を持った方が、比較的小さな単位でビジネスを起こし、生きがいにつなげていくことを支援する機能

〔3つの事業〕

ユニバーサル就労支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者・生活困窮者などへの就労準備や就労先マッチングなどの総合的な伴走支援を担う。 ・都市部企業・団体からの現地採用の社員・職員としての障がい者雇用マネジメント業務を請け負う。
発酵の里エコ・ガーデン & ファーム	<ul style="list-style-type: none"> ・「発酵」をテーマに、買い物、飲食、講座、体験などのアクティビティが一体的に楽しめる場。 関連事業として、製品づくりやガーデン事業、エネルギー事業を展開し、総合的に、障がい者・生活困窮者などの就労の場を築いていく拠点とする。
リボン・ヘルスラボ	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者や潜在的な就労者を対象に、就労継続のためのリハビリや予防、就労の意欲を引き出す働きかけを行う。 ・安心して働ける環境づくりのため、高齢者の見守りサービスや、就労動機となるボランティア・ポイント・システムを運営する。

他地域での展開へ向けて、事務局での営業開発や、公募等の展開も検討する。

【地域開発状況】

地域名	開発状況
長野県	子どもの居場所づくりとして県が展開している「信州子どもカフェ」の事業自立化を意図した研究会の実施を提案。
長野県小布施町	若手起業家の育成を意図した「起業塾」プログラムを提案。
静岡県三島市	障がい者雇用を推進するまちづくり計画を提案。平成 30 年度 地方創生推進交付金事業としての展開を推進中。
京都府京都市	ソーシャルビジネスによる総合子育て支援事業を中心に意見交換。
島根県雲南市	シフトラボの実践フィールドをととしての協力体制を構築。2017 年 10/11、11/28 にフィールドワークを実施。
山梨県道志村	自然エネルギー・シフト コミュニティとして、空き家利用事業国土交通省が展開する「住宅：空き家再生等推進事業」を活用した事業化を図るべく、フィールドワークを実施。サテライトオフィス推進事業への参画を模索中。

他

1.2 ビジネス・シフトラボ

昨年度に続き、東京大学・情報学環とも協働し、ハウスメーカー、建設会社等を中心とした事業展開を図ると共に、「丸の内プラチナ大学」等の取り組みを通して更なる事業開発を図る。

1.3 丸の内プラチナ大学

「丸の内プラチナ大学」第三期の展開として、以下の事業を実施する。

① 「Social SHIFT テーブルコース」

毎回異なる SBN メンバーが登壇する連続講座。少人数限定で、ソーシャルな飲食を伴う寛いだ雰囲気の中、個別の質疑を行うことができるプログラムとして展開。

- ・ 登壇者※調整中：染谷ゆみ 氏 TOKYO 油田 2017 プロジェクトリーダー、植田紘栄志 氏 株式会社ミチコーポレーション代表取締役、佐野一郎 氏 NPO 法人じぶん未来クラブ代表、石坂典子 氏 石坂産業株式会社 代表取締役、河野通洋 氏 株式会社八木澤商店 代表取締役
- ・ 実施日：7 月 20 日(金)、8 月 21 日(火)、9 月 21 日(金)、10 月 12 日(金)、10 月 19 日(金)、10 月 26 日(金)、11 月 9 日(金)、11 月 16 日(金)、のうち 5 回
- ・ モデレーター：石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局
- ・ 時間、会場：3×3 Lab Future、18:30～20:30

② 「SDGs ビジネス速修コース」

ジャパン SDGs アワードなど先進事例から学び、基礎力と実践力を短期に身につける連続講座。

- ・ 講師: 笹谷秀光 (株式会社 伊藤園 顧問、日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、サステナビリティ日本フォーラム理事)
- ・ ゲスト講師: ファシリテーター 臼井 清氏 (合同会社志事創業社 代表)
- ・ 実施日: 7月17日(火)、7月25日(水)、8月28日(火)、9月11日(火)、10月9日(火)、10月23日(火)
- ・ 時間、会場: 3×3 Lab Future、18:30～20:30

1.4 SANNO 夜活講座

産業能率大学からの依頼により、同大学が展開する「SANNO 夜活講座」の中で、町野弘明事務局長、倉増京平フェローを講師とした講座を展開する。

- ・ 講座名: 「2030年の日本を考えるゼミ 社会課題を解決するビジネスが日本を変える」
- ・ 日程: 9月3日(月)、5日(水)、7日(金)、10日(月)のいずれか1日
- ・ 時間: 18:30-21:00
- ・ 場所: 東京駅サピアタワー 産能セミナールーム

1.5 フォーラム

昨年に引き続き、ギャザリング的な場として、「ソーシャル・タウン・フォーラム～地方創生、SDGs 実践に向けて SBN ができること～」を開催する。

- ・ 登壇者: 川北秀人 理事、小出浩平フェロー
- ・ 開催日時: 6月25日 19:20～20:20 ※総会と同時開催
- ・ 会場: 3×3 Lab Future

1.6 コミュニティ

① 自然エネルギー・シフト コミュニティ

引き続き担当である鈴木亨理事を中心に、小出浩平フェロー、大場龍夫フェローと共に、プロジェクト・プロデュース型で地域案件をベースに展開を推進中。現在、千葉県鋸南町、東京都三鷹市への対応を検討。

② 障がい者雇用コミュニティ

担当である海津常務理事を中心に、メンバー所属組織のケーススタディを実施。今後の取り組みについては、新しいメンバー構成を意図して、ゼネラルパートナーズの進藤代表との連携を模索。

2 社会事業家 100 人インタビュー

100人へのインタビュー実現に向け、継続展開を図る。

回	開催日時	開催場所	ゲスト
56	4/6 19:00～21:00	ETIC.ソーシャルベンチャー・ハビタット	(特)ORGAN 理事長／長良川温泉泊覧会プロデューサー 蒲 勇介さん
57	4/10 18:30～20:30	日本財団	(特)秋田県南 NPO センター 理事 菅原賢一さん

3 今後の活動計画の考え方

3.1 政策提言(アドボカシー活動)の推進

① 「ソーシャルビジネス白書」の発行

政策提言(アドボカシー活動)として、「ソーシャルビジネス白書」の発行を検討する。白書の発行に当たってはクラウドファンディングや企業等協賛、販売等による資金調達を試みる。

目的:1.目的:SIJ 発足から15年、SBN 設立及び「ソーシャルビジネス元年」から7年が経ち、ソーシャルビジネスという言葉が定着すると共に、企業においても、CSV やSDGs など、本業における社会貢献が浸透し始めている現在、日本唯一のソーシャルビジネス事業者の全国ネットワーク組織として、ソーシャルビジネスの現状を取りまとめ、広く経済的・社会的な存在感を明示していくことを目的とする。SBN の政策提言(アドボカシー)の一環としての展開も意図する。

② 「首都圏若者サポートネットワーク」への協力

社会的養護を取り巻く課題から家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者の自立を支援する取組みとして「首都圏若者サポートネットワーク」が設立され、池田徹 顧問(ユニバーサル志縁センター代表理事)からの要請で、広報や就労支援などの協力を検討する。

3.2 中長期改革の推進

引き続き、三か年の中期的なスパンで、組織や事業戦略に関する検討を行う。今後の中長期的な視野でビジョン・ミッションや体制・活動などのあり方も改めて見直し、改革を図っていく。この間の活動や検討から、例えば以下のような改革の方向性・考え方が見出されてきている。

【改革の方向性・考え方】

A. 現状におけるミッションの明確化

- ・ソーシャルビジネス普及啓発→ソーシャルタウン・プロデュース(シフトラボ等)
- ・自律分散型の自立型自治共同体モデルの速やかな構築・実践(SEA との連携)

・オールジャパンで唯一の業界団体としてのつながり・交流継続(ゆるくても)

B. グローバル、サステナブルかつ未来志向の展開推進

- ・SDGs や CSV 等の直近のソーシャル・ビジネストレンドへの対応(プラチナ大学等)
- ・IoT やシェアエコノミー等の最新科学技術展開との連携(東大・情報学環との協働等)
- ・ソサエティ 5.0 やインクルーシブモデル等、フューチャーイン対応(専門フェロー等参画)

C. 経済団体としての持続可能な運営

- ・地方創生や働き方改革等の直近の行政施策への事業開発対応(推進交付金等)
- ・SB ノウハウによる企業や自治体コンサルテーション(シンクタンク型)受託推進
- ・行政や社会に対するアドボカシー活動の推進(白書や政策提言・啓発への参加等)
- ・会費やファシリティ提供等によるメンバーの参画性が向上する環境づくり